



北海道 造形教育 連盟報

No.147 2018.12.10発行

発行 北海道造形教育連盟

会長 森長弘美 (札幌市立前田北中学校長)

事務局長 東 尚典 (札幌市立有明小学校長)

事務局 札幌市立有明小学校
〒004-0821

札幌市清田区有明141-2

TEL(011)881-2949・FAX(011)881-9074

北造連HP <http://hokuzou.kir.jp>



第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会を終えて

第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会

運営委員長 鎌田 俊博
(江別市立大麻西小学校)

毎年夏休みに入ってすぐの時期、暑い会場で図工・美術教育について熱く語り合うことで、その年の夏を実感するのが常でした。今年も気温が30度を超える炎天下の中、皆様方のおかげで第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会を無事開催することができました。大会テーマを「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」～おもう・さぐる・つながる・つなげる～とし、子どもと同じ目線に立ち、子ども自身の身近な生活の中から創造意欲につながる物事を、題材として見つけ出していきたいという考えをベースに、4つの視点に基づきながら授業づくりを進めてまいりました。また、空知の基調である「持ち寄り、語ることから始めよう」というコンセプトを守り抜き、子どもの作品に根差し、目の前の子どもたちと語りあってきた「空知の精神」は、全道にも少なからず

影響を与えていることと思います。こうした地道な活動から、「教師の願いにより作られた作品」から「子どもが自らの思いを表現した作品」に変貌した例をたくさん見ることができました。今回の研究大会を通じ、さらに「空知の精神」が全道に浸透していくことを心より願っております。

ご支援をいただいた北海道教育委員会、岩見沢市教育委員会をはじめ関係機関各位、会場校としてご尽力いただいた岩見沢市立光陵中学校、岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館の職員の皆様、本部役員及びご助言をいただいた方々、参加者各位、そして大会運営に携わった運営委員の皆様方に心より感謝申し上げます。空知岩見沢大会の終了にあたってのお礼とさせていただきます。本当にありがとうございます。



第68回全道造形教育研究大会 空知岩見沢大会

大会テーマ・研究主題 **まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育**
～おもう・さぐる・つながる・つなげる～

空知岩見沢大会を振り返って

空知美術教育研究会 研究部長 桔梗智恵美
(芦別市立芦別小学校)

全道造形教育研究大会空知岩見沢大会に多くの先生方、関係機関の皆様にご参加ご協力いただきましたことに深く感謝いたします。空知美術教育研究会では「まなざしを共有しおもいをつなげる造形教育」を研究主題とし取り組んできましたが、各地区の皆様にご作品・実践・題材を持ち寄っていただくことで、全道の子どもの姿を作品を通して共有することができました。今後も「持ち寄り、語ること」が多くの先生方をつなげていけたらと思います。本当にありがとうございました。

幼稚園 年中／つなげる

子どもの見る世界 ～もりのおふろ（表現・工作）

金子 英里・大津充紗子（よいこのくに幼稚園）



参加者の声

分科会記録より

絵本の世界に浸る姿がとても素敵でした。子どもたちが材料に向き合い、楽しみながら選んでお面にしていました。同じ材料でも使い方が違って、こだわってつくっていることがわかりました。ワニの子が葉っぱをバラバラにして模様にしていて、材料の工夫がよかったです。動物になりきれ、絵本選びがとても重要と感じました。

小学校 全校／おも

た・ど・し・の・わ・た・し（表現・工作）

村山 尚子（深川市立多度志小学校）



参加者の声

米谷 智成（札幌市立西園小学校）

他の学年と一緒に図工の学習ができることが小さな学校の特徴であり、大きな魅力でした。「動物はそんなに、鮮やかな色じゃない。」と話していましたが、自然が身近にあることで、動物の仕草や色なども見慣れているんだなあと、感じました。もう少し発想を広げ、空想上の動物などがあると自由にイメージを広げ、豊かな思いの作品になったと感じました。

小学校 1年／さぐる

コロコロぺったん（表現・絵画）

大野 寛文（岩見沢市立中央小学校）



参加者の声

若林 朗子（千歳市立北陽小学校）

ローラーで自由に描かれた大きな紙を見るだけで意欲が高まる授業でした。スタンプを押すことで、見立てや偶然できた色の混色もあり、子どもたちの発見がありました。お弁当箱に見立てた子に、「中身は何か？」「どんなものが入っているの？」などと聞いてあげるとイメージがはっきりしたと感ずます。プラスチックのスタンプのいかし方も深めることもできました。

小学校 3年／つながる
美術館へ行こう（鑑賞）

佐々木 紗（岩見沢市立中央小学校）



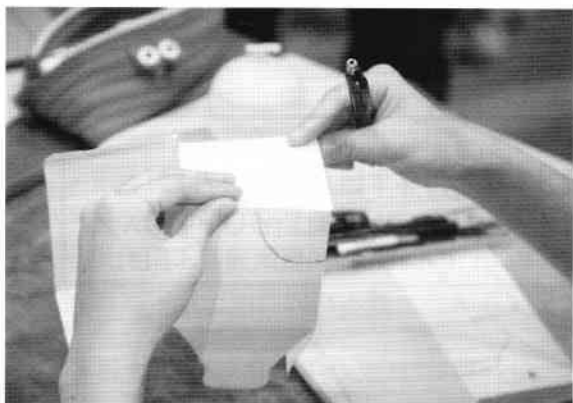
参加者の声

木村 伸仁（函館市立南本通小学校）

授業冒頭、事前にカードで絵を見て、自分のお気に入りの作品を選んできた子どもたちが、本物を見たとき、「カードと全然違う！」と感動しきりだったことが、非常に印象に残っています。やはり、本物のもっている力はすごいと実感しました。また、学芸員と教師の役割分担や、授業の組み立てなど、今後の授業を考える上でたいへん参考になりました。

中学校 2年／さぐる
見えるかな～パッケージのデザイン（表現・デザイン）

橋本 幸枝（夕張市立夕張中学校）



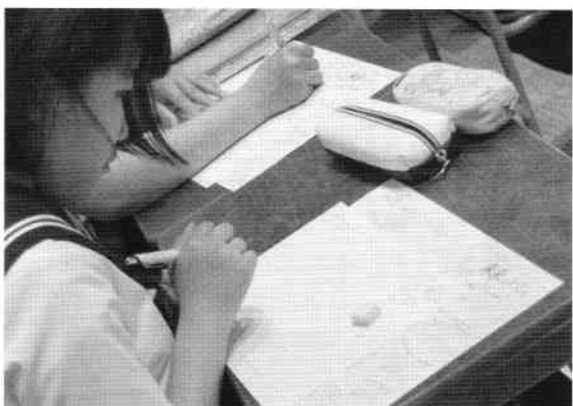
参加者の声

村中 鉄也（広尾町立広尾中学校）

どの子の作品からも夕張メロンに愛着をもっていることが伝わり、地域のよさを活かした授業でした。ワークシートに書かれたデザインをもとに6面のパッケージを構成するには、イメージをいくつかのパーツに分け再構成する必要があると感じました。今後、道の駅などに展示され、地域に向けて発信されると、生徒の満足度も大きくなると思いました。

中学校 3年／おもろ
心の窓 ～未来の私に向けてのエール～（表現・絵画）

三森 彩美（岩見沢市立光陵中学校）



参加者の声

分科会記録より

作品の内側と外側の時間の経過をつくっているのがとても面白い題材と感じました。スタイロフォームでつくる作品ですが、加工がとても難しいと感じました。また、中のものをどのようにするか、こだわればこだわるほど時間がかかるように思います。生徒のイメージをどこまで作品に生かされるかを考えると、時間とのバランスが大事になります。現在と過去をひとつの作品に込めたことに題材の価値を感じました。

高等学校／つなげる
見える音・聞こえる形（表現・絵画）

棚田 将史（北海道岩見沢緑陵高等学校）



参加者の声

塩田 晃（北海道帯広三条高等学校）

今回の授業は、見えるものを描写するのではなく、教師が用意した音を聞き、生徒がそのイメージを紙にアクリルガッシュ等で描くというものでした。ワークシートの前時までの書き込みからは、同じ音を聞いていても生徒が着目している部分が違っていることに加えて、そこからの発想が多様であることがうかがえました。生徒に話を聞くと、音のイメージを高校生らしく定義していて、それをより効果的に表現しようと工夫していることがわかりました。棚田先生は見えないものを形や色で表現することを通して、いわゆる上手い絵・下手な絵の概念を崩すことを意図していたとのことですが、よいきっかけになったのではないのでしょうか。

第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会

詳細は [造形Online](#) で検索！大会の公式LINEアカウントも開設しました！



第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会事務局長 吉野法行

教師になったはけれども、図工や美術について周囲に聞ける教師がいなく、「これで良いのか？」と不安や迷いを抱えながらやっている。そういう人は多いのではないのでしょうか？

道北ブロック大会では、そういう不安や悩みに応える大会を目指します。新学習指導要領の本格実施に向けた授業、小中の連携、幼稚園・高校・大学・美術館・美術部など様々な組織との連携など、私たちが日頃より取り組んでいる地に足のついた成果を中心に発表します。

期 日：2019年7月30日(火)

場 所：旭川市立永山中学校

様々なニーズに応える授業

- 小学校5本 中学校4本 幼稚園4本 高校1本(予定) など
多彩なニーズに応える授業
- 完全に1時間ずらして、2本の授業をしっかりと見られます
- 旭川美術館で美術部による鑑賞会の公開予定

造形まつり in 全道大会

- 今回もやります！参加お待ちしております！

新学習指導要領に準拠

- 新学習指導要領に準拠した内容になっています

第45回 北海道教育美術展

詳しくは、ホームページをご覧ください。
(<http://hokuzou.kir.jp/>)

作品展：平成31年1月11日(金)～14日(月)
会場：道新ぎやらりー及び道新DO-BOX
(札幌市中央区大通西3丁目)

宗谷管内造形教育研究会について

猿払村立拓心中学校 遠藤 大輔

現在、宗谷管内では全道造形教育連盟の加入組織がないため、宗谷管内教科等研究会図工美術部会というすでに組織されている管内組織の中から、有志という形で北海道造形教育連盟への加入に向けての動きをつくっているところです。

宗谷管内においては、学級減などから全体的に図工美術の専門教員は少なくなっていますが、現在担当されている方々はそれぞれ創意工夫されている先生方ばかりです。漫画やイラスト、デジタルなどを駆使した作品作りを行ったり、自画像と言っても全く自画像としての枠を越えた自由な自画像作りをしたりなど、美術の楽しさや枠を広げているアイデアがたくさんあります。

また、小中連携として、水彩絵の具の使い方について小学校の先生方へ中学校の先生が教えに行く、というような取組や、小中合わせての作品交流なども毎年行われています。特に、図工の指導に困り感を抱えている小学校の先生への支援が各市町村で行われていることが多いです。

こうした一つ一つの点をしっかり結び、より多くの方々に宗谷の人々の実践を知っていただきたいと思い、これから先も活動を進めて参りたいと思っています。



あ が き

今年は雪の便りが遅く、先日やっと真っ白に輝く朝を迎えました。雪のある生活は何かと大変ですが、この美しさは雪の降る地域でなければ感じることでできない感動ですね。

さて、空知・岩見沢大会では授業実践を通して、多くを学ぶことができました。全道各地からお集まりいただいた皆様のおかげで、造形教育の価値を感じることができました。また、新学習指導要領について学びを深めることができました。この思いを、次期、道北ブロック大会へとつなげていけるよう願っています。最後に連盟報の発行にあたり、原稿の執筆などたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。

<北海道造形教育連盟 広報部> 篠原 貴・小林 知広